

## 安曇野自然農学習会 2005

シャロムヒュッテ

2005年9月19日(月)



白井健二さん(左)と小田詩世さん

### 自然農

自然農、それは「耕さず、肥料、農薬を用いず、草や虫を敵とせず」川口由一さんが提唱する農です。今回も長野県、安曇野のシャロムヒュッテで詩世さんケンさんと共に自然農を体験学習し、感じたことを皆さんと分かち合えたらと思い書かせていただきました。

今回は、川口由一さんの自然農はもちろん、福岡正信さん、岡田茂吉さんの自然農法の哲学にはじまり、道端の草のお話、チキントラクター、粘土団子の種蒔き、秋野菜の播種(野沢菜、大根)レタスの移植、小麦の播種、キャベツ、レタスの苗作り、そしてニンニクの播種を行いました。

### 自然の哲学



今回の安曇野自然農学習会は、自然農の背後にある「自然の哲学」から始まった。自然農は、川口由一さんが、有吉佐和子著『複合汚染』と福岡正信著の『わら一本の革命』がヒントになったものだ。自然農法には、大きく二通りある。一つは、『複合汚染』にも、紹介されている岡田茂吉さんのものと、福岡正信さんのものがある。他にシュタイナーのバイオダイナミック農法や循環農法など自然に寄り添った農法が沢山あります。岡田茂吉さんの自然農法は、簡単に説明すると「豊かで健康な幸せな社会を作るには、健康な人が必要であり、そのためには、健康な土でつくられた食物が必要である。そのための自然農法である。」

それに対して、福岡正信さんの自然農法は、「無。つまり、この世には、目的もなく、することもない。何もしなくても自然は豊かになる。だから、自然農法は、神(=自然)の

農法である。」

今までの農業は、かつての四大文明が栄えたところが示すように、砂漠に向かっている。福岡さんは、粘土団子にいろいろな種を混ぜ、砂漠に蒔くことで、砂漠の緑化を訴える。

現在の日本の生活レベルを全世界ですると、地球が約 2.5 個必要だという統計がある。今こそ、自然の哲学を活かした持続可能な農業はじめるときだ。自然農は、特別な知識や道具もいらず、種さえあれば始められる。

## 自家採種をしよう！

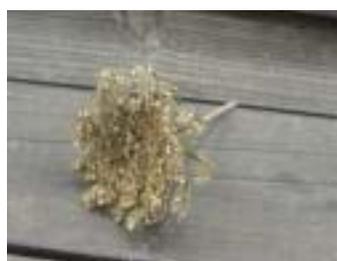
大根の種



野沢菜の種



にんじんの種



上の写真は、みんなシャロムヒュッテで自家採種したもの。自家採種とは、野菜の種を自分で採ること。自分の畑で採種することで、生命をつなぐだけでなく、年々自分の畑に合った種になり、野菜も作りやすくなる。



最初は、種屋さんで左のような種を買ってくる。今売っている種の多くは、外国産であったり、F1（1代交配）といわれ自家採種すると2代目以降、姿かたちがバラけてしまう。それでも自家採種し続けると、その土地、風土にあったものが残り、オリジナルな品種ができるからおもしろい。もしも種屋さんに「固定種」や「在来種」というものがあるか聞いてみるのも手だ。固定種は、自家採種しても毎年同じものが採れ、在来種は、日本の風土に合っているのが強く、自然農にはもってこいの種といえる。

## 雑草のひみつ



インタープリター（自然の通訳者）の梅崎さんによる草の説明がありました。左の写真は、よく道端のような、固い地面に生えている「オオパコ」とい



う草です。なぜ、踏まれても、強いのかというと、じつは、成長点が地面のきわにあり、守られているからです。

木と草の違いは、木は、毎年枝葉を伸ばすのに対し、草は一年で枯れていったんなくなり、自分の体をはじめから作り直すこと。梅崎さんの説明にみんな、見慣れた自然が新鮮なものになりました。

## 自然の知恵



草ぼうぼうの中に、どうやって種を蒔くのか。「草は草で押さえる」 野菜を植えるところの草を刈り、その隣に重ねる。そうすると、草を重ねられたところの草は、光を遮られ、育ちません。人間も一緒です。良くやったね なかなかいいね。そんな言葉が人を育てます。そして、重ねられた草は、微生物やミミズのすみかを作り多様性が生まれ分解され、土に戻る過程で野菜に養分をも供給します。

右の写真のドームには、鶏が飼われている。鶏が草を食み、虫を食い、糞をし、自分の足でかきまぜる。そうすることで、その場の草はものも見事になくなり、糞は土地を肥やす。そして少しずつ移動させていく。これがパーマカルチャーでいうところの「チキントラクター」である。



## 粘土団子で種まき！



1個に3個くらいが目安です。こうして蒔かれた種は、その土地にあったものが、自然に発芽して残ります。

粘土団子は、福岡正信さんが考案したものです。種を粘土の団子でくるむことで、鳥や昆虫から守ることができます。砂漠緑化などにも使われ効果が出ています。田畑では、いろいろな種類の種(例えば、クローバーや様々な野菜の種)を混ぜ、粘土団子



## 1ヵ月後の畑の様子



===== >

2005.8.21



2005.9.19

先月、腰丈ほどの草むらに蒔いた蕎麦が、見事に咲いていました！



===== >

2005.8.21



2005.9.19

先月、畑に生えていた、にんじんの花から採った種もパセリのような本葉を広げていました。今回は、込み合っているところを丁寧に間引いてあげました。

## 簡単な大根の種まき法



自家採種した大根の種のサヤは非常に硬い。だから、種を取り出しにくい。種採りのプロの農家さんは、ブルーシートの上に大根の種のサヤを置き、軽トラックで何回もサヤの上を往復し、サヤを割って、種を取り出すほど。

自然界を観察していると、サヤは十分に水を含むと、自然に種が根を出し、発芽している。そこで、今回はサヤのまま、30cm間隔で蒔いてみました。

## 野沢菜も超かんたん！



今回も、先月の蕎麦の種まき同様、草の上から、パラパラと野沢菜を蒔きました。あとは、右下のように、のこぎり鎌で、草を刈って敷くだけ。秋は背の高くなる成長の早い夏草がないの



で草が伸びる前に大きくなってしまふから可能な種まきの方法です。この方法は春には草に負けてしまいます。

## レタスの移植



先月蒔いた苗床のレタスを移植します。まずは、移植予定地に穴を掘っておきます。もしも乾燥続きの場合は、移植の前にジョウロでたっぷりと水を含ませ、水がひいてから移植します。移植のコツは、苗が移植されたのに気づかないくらい、手早く、そして丁寧に、かつ根の周りの土ごと移植してあげることです。



## 小麦の播種



小麦は、ばら蒔きの場合、1反(300坪)につき、8升(12kg)、つまり、 $10 \times 10\text{m} = 100\text{m}^2$ では、8合。ちなみに、左の写真の升すりきりで、1合。

カラスノエンドウなど、つるが被い茂る草のある畑の場合は、すじ蒔きでは、3分の1から4分の1くらいの量。

### すじ蒔きの場合



まず、左の写真のように、後進しながら、地上の草を剥いていく。自然農では、「地上部の草は地上で、地下の根は、地下で朽ちさせます」。

その後、右の写真のように、多年草・宿根草など、越冬する草の根も丁寧にのこぎり鎌で取り除くことで、後々の作業が楽になります。



次に、鍬で浅く草の根を切るように、耕します。その後、左の写真のように、鍬の背で土を平らに鎮圧します。

そして、いよいよ種まき。右の写真のように、指と指の間から、均一に種を蒔いていきます。

ポイントは、一度に蒔かずに、往復しながら蒔くこと。



左の写真のように、ほぼ一定間隔に蒔きましょう。

種まきを丁寧にすると、後々作業が楽になるだけでなく、収穫量にも差がでます。

右の写真のように、種の間隔は、手で、丁寧に修正してあげるとよいでしょう。





そして、草の種の含まない土を、種が隠れるくらいしっかり覆土し、鍬の背もしくは足でしっかり鎮圧し、乾燥を防ぎましょう。土がしっかり密着することで、乾きにくくなるだけではなく、地中の水分が上がってきて、発芽にムラがなくなります。

そして最後に、刈った草を敷きます。そうすることで、いっそう乾きにくくなると同時に、鳥などから種が見つかりにくくなります。

#### ばら蒔きの場合

広い面積に小麦を作る場合は、ばら蒔きがよく、きっちりと計量した小麦の種を均一に、指の間から蒔きます。

その後、冬草を中心にのこぎり鎌で丁寧に狩り敷きします。



この草刈り作業を丁寧にやることが重要です。ばら蒔きの場合、播種後は除草が出来ませんから。



#### 冬の草、 夏の草



左上の写真は、冬草の代表的なハコベ。右上の写真は、種をつけたシロザ（夏草）。自然

農では、枯れていく草でなく、野菜の初期成長時に競合する草だけを刈り取りの対象にします。だから、今回の刈り取りは、冬草である小麦の競合相手の冬草だけです。



そうして、小麦を播種したあとは、周りの草を刈って、左の写真のように一面に敷きます。

その後、小麦の種がしっかりと地面に着地するように、敷きの草の上を歩きます。

(この時の敷き草は、イネ科のような細長い葉の草が適当です。あまり葉が大きく広い場合、影をつくってしまい、小麦の発芽がいじけてしまうからです。畑の空いた片隅に、敷き草用に、草を生やしておくのも一方法です。)

## キャベツ&レタスの苗床づくり



左の写真のように、畝全体を種まき用にあける場合、中央から左右に振り分けて、作業するとスムーズです。

まず、右の写真のように、草をのこぎり鎌で刈り、鍬で草をはぎ、鍬の背か、足などで平らに鎮圧します。



上の写真のように、のこぎり鎌などで播種溝を掘り、種を等間隔に丁寧に蒔きます。



そして、草の種のない土を種が隠れるほど覆土します。

最後に、自家製の籾殻燻炭（モミガラクンタン）を下土が隠れる程度にかけました。籾殻燻炭をかけることで、草が生えにくくなるだけでなく、太陽の熱を集めやすく、霜による冷害を緩和してくれます。

とくに、アルカリ土を好むネギ類（長ネギや玉ねぎ）の育苗では、酸性の強い土壌を中和してくれるので、いっそう効果的。無ければ刈草で充分です。

## ニンニクの播種



ニンニクは、1玉だいたい6片くらいの太りのよいものを用意し、1片ずつに分けます。

そして、写真のように、30cm幅2列に15cmずつに縦に、埋めたらニンニクの上5cmくらいの土がかくれる程度の深さ、穴を掘ります。

最後に土を被せ、刈った草を敷きます。



もっと自然農を詳しく知りたい、そんな方は、川口由一著『自然農 川口由一の世界』（晩成書房）、『自然農から農を超えて』（カタツムリ社）、『妙なる畑に立ちて』（野草社）をご覧ください。

レポート 竹内 孝功（たけうち あつのり） Email : [takecook3@yahoo.co.jp](mailto:takecook3@yahoo.co.jp)

福岡正信氏の自然農法をはじめ、川口由一さんの自然農、岡田茂吉氏の自然農法などを学ぶ。現在（財）自然農法国際研究開発センターで研修中。人の顔の数だけ農法があると思っている。自然の真理を学び、無理無駄がないオシャレなオーガニック「ナチュラルオーガニック」を多くの人に紹介したいと思っています。

安曇野自然農学習会 年9回 参加ご希望の方は舎爐夢（シャロム）ヒュッテに連絡下さい。